



甲子園の、 その先へ



野球との出会い

兄のサッカー練習を見学していた幼い頃、近くでやっていた少年野球のキャッチボールに誘われたことをきっかけに、野球人生が幕を開けました。野球にのめりこんだ理由は、「素直に楽しいというのが一番」とのこと。いつしか野球が、なくてはならないものになっていきます。

甲子園を目指す日々

花咲徳栄といえば、言わずと知れた強豪校。「ここに入れば甲子園に行けると思った」と、大きな憧れを抱いて入学します。1年生秋にベンチ入りし、2年生秋からは1番打者としてレギュラーへ。その道のりについて、「守備の方が得意で、今自分に何が足りないかなって考えたときに、打つ力が足りなかったの、とにかく打つ練習をしました。それが結果につながったのかな」と話します。強豪校でのレギュラー獲得は、的確に自分を分析し、目標に向けて日々努力を重ねた結果でした。

憧れの甲子園

2年生のとき、夢に見た甲子園の舞台へ。「緊張するかなと思った

んですけど、全然なくて。観客多いなあって(笑)。楽しみでしかなかったです」と振り返ります。ようやく迎えた自分たちの代、コロナ禍で春夏の大会は中止に。「甲子園を目指してやってきたので、それがなくなったと聞いたときは悔しかったです」と、思いをこぼしました。

最後の夏、全員野球で

春の大会の代替である1日限りの交流試合が甲子園で開催され、南さんは1番打者として出場し、見事勝利しました。間もなく県の大会が始まりましたが、結果は惜しくも5回戦敗退。南さんは全試合に4番打者として出場しました。「自分が打たないといけないという気持ちだった。結局負けたんですけど、3年生全員で戦えたので、悔いはないです」と、すがすがしい表情で引退後の心境を語ってくれました。

これから目指すもの

「大学で野球を続けます。目指しているのは大学の日本代表。そこで活躍できれば、プロにも行きたい。体をしっかり作ります」と、力強く新たなステージへ踏み出します。野球一筋、輝き続ける努力の星に、期待です。

編集後記

鶴ヶ島出身で、ふるさと応援大使の「鶴」の皆さんに、インタビューをさせていただきました。あと数年後には結成20周年。「誰もやらないことをやりたい」と、いろいろな企画を構想中とのこと。どのような状況にあっても、前向きに取り組む三人の姿勢を見習わなければ。つるゴンのテーマソングができるかも?! ご意見・ご感想は秘書広報課広報聴担当へ
✉10200001@city.tsurugashima.lg.jp



みなみ だいすけ
南 大輔さん
(野球)

栄小学校、富士見中学校出身
花咲徳栄高等学校3年生
第101回全国高校野球選手権大会出場
2020年甲子園高校野球交流試合出場

坂戸鶴ヶ島ジュニアリーグで、2012年に5冠(※)達成。「栄少年野球クラブのコーチの皆さんには本当にお世話になった」と今でも感謝しているそうです。中学時代は「東京神宮シニア」に所属し、野球の腕を磨きました。

※ 最多勝利、奪三振、打点、打率、盗塁

